

歯学部

I	研究の水準	研究 3-2
II	質の向上度	研究 3-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における学術論文数は638件で、そのうち欧文論文数は486件となっている。また、学会発表数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の1,217件（国際発表257件、国内発表960件）から第2期中期目標期間の2,136件（国際発表479件、国内発表1,657件）となっている。
- 科学研究費助成事業の採択状況は、第1期中期目標期間の319件（約9億4,700万円）から第2期中期目標期間の592件（約11億7,000万円）となっている。
- 特許の取得件数は、第1期中期目標期間の0件から第2期中期目標期間の15件となっている。

以上の状況等及び歯学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に病態科学系歯学・歯科放射線学の細目において特徴的な研究成果がある。また、学会の優秀発表賞等を147件受賞している。
- 特徴的な研究業績として、病態科学系歯学・歯科放射線学の「口腔癌の浸潤に関わる新規因子の同定」の研究があり、口腔癌の浸潤に関わるペリオスチンが、アトピー性皮膚炎、喘息等のアレルギーや、心筋梗塞等の他の疾患の発症にも関与することを明らかにしている。

以上の状況等及び歯学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、歯学部の専任教員数は95名となっている。

学術面では、提出された研究業績14件（延べ28件）について判定した結果、「S」は5割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 口腔免疫疾患研究、生体材料開発研究、歯の再生研究及び頭蓋顎顔面領域先天性疾患研究の4つの重点研究を推進している。
- 第2期中期目標期間におけるインパクトファクターが5以上の学術誌に掲載された学術論文数は37件となっている。また、第2期中期目標期間の科学研究費助成事業、補助金、受託研究等の合計金額は、年度平均2億6,900万円となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- iPS細胞の樹立とその応用に関して、学部の研究プロジェクト「再生医学研究プラットフォームの構築と臨床応用への展開」が全学の「革新的特色研究プロジェクト」に採択され、再生医学研究と臨床応用への実現に向けた、基盤形成の役割を担っている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。